



お客様やお取引先を巻き込んだ エシカルな社会づくりに取り組みます



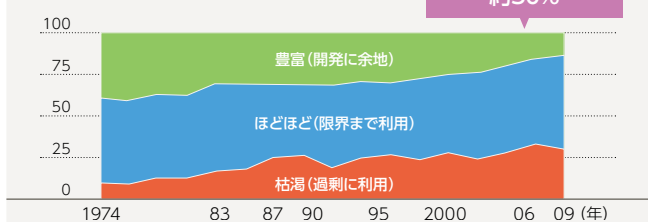
社会的 背景

世界では2万種を超える動植物が絶滅の危機に直面していると言われています。途上国の生産工場では低賃金労働や児童労働など、労働者の人権が問題とされています。こうした背景から、生産地の環境や生産者の人権に配慮した商品を購入したいというエシカル*な消費者が増えており、企業には持続可能なビジネスモデルの構築が期待されています。

*「倫理的」「道徳上」という意味。近年では、環境保全や社会貢献という意味が強くなっている。

世界の水産資源の動向

(%)



出典:FAO ;The State of World Fisheries and Aquaculture 2012をもとに作成

商品・サービスを選択する際に社会貢献につながるものを意識的に選択することがありますか？

社会貢献につながるものを意識的に選択する人は
59.2%

- ある
- どちらかといえばある
- どちらかといえばない
- ない
- わからない



出典:内閣府「消費者行政の推進に関する世論調査」(2013年度)

環境・社会に配慮した価値のある商品・サービスを提供することで、近年高まる「エシカルな消費」への意識に対応するとともに、お客様やお取引先を巻き込み、エシカルな社会づくりに挑戦します。

「持続可能な調達基本方針」の策定

自然資源の原材料調達に関し、将来世代にわたり持続可能な調達が求められており、ステークホルダーからの要請をふまえて調達方針を策定

「お取引先行動指針」の徹底

お客様に安全・安心な商品を提供し、お取引先と協働で人権・労働・環境面などの社会的責任を果たしていくため、お取引先行動指針の運用を徹底

約束のための活動

持続可能な森林整備活動

地球温暖化防止に貢献し、生物多様性の保全に寄与することを目的に、「セブンの森」プロジェクトを実施

お客様への啓発活動

お客様に地球温暖化防止や生物多様性など、持続可能な社会の実現に向けて、ご理解いただけるように環境配慮商品を開発・提供

生み出す
価値

社会にとっての価値

資源の持続
可能性向上

お客様、
お取引先の
社会・環境配慮
の向上

セブン&アイHLDGS. にとっての価値

サプライチェーン
リスクの低減

安定した
原材料の確保



お客様やお取引先を巻き込んだ
エシカルな社会づくりに取り組みます

持続可能な森林保全活動

●「セブンの森」森林保全プロジェクト

セブン&アイHLDGS.は、一般財団法人セブン-イレブン記念財団と協働して地球温暖化防止、生物多様性の維持・保全に寄与することを主旨として、「長野セブンの森」を中心に、全国15カ所で森林整備活動に取り組んでいます。この「セブンの森」プロジェクトでは、「健全な森林づくり」を目指して、植樹にとどまらず、計画的に下草刈り、間伐などを行っています。グループ社員やセブン-イレブン加盟店のボランティアによる森林整備も定期的実施しており、2014年度は19回開催し合計1,848名が活動に参加しました。

また、長野の活動地では、森林から得られる木質材をグループ内の店舗資材や事務備品として使用するほか、商品化を進めることで国産木材の活用を促進しています。



「セブンの森」森林保全プロジェクトの概要



セブン-イレブン記念財団

セブン-イレブン記念財団は、加盟店と本部が一体となって環境をテーマにした社会貢献活動に取り組むことを目的として、1993年に設立されました。お客様からお預かりした店頭募金と本部からの寄付金をもとに、環境をテーマにした社会貢献活動として、全国各地で活動する環境市民団体への支援をはじめ、「地

球温暖化防止」「地域活動支援」「自然環境保護・保全」「災害復興支援」「広報」の5つの事業を行っています。

2014年度の募金総額は約4億3千万円、公募助成先総数(継続を含む)は268件、助成総額は約1億7千万円でした。



TOPIC

高尾の森自然学校

セブン-イレブン記念財団は、2015年4月10日、東京都との協働事業として東京都八王子市川町に「高尾の森自然学校」を開校しました。「人と自然、自然環境と地域社会の共存・共栄を自然から学ぶ」を基本理念として、約26.5ヘクタールの森林を健全な森に蘇らせることにより低炭素社会の実現に寄与したいと考えています。希少動植物の保護・保全活動や体験学習を通して、生物多様性を守りながら自然の魅力や大切さを学べるプログラムを展開していきます。



お客様への啓発活動

●「長野セブンの森」の間伐材活用

セブン&アイHLDGS.は、「長野セブンの森」から伐採した間伐材を包材に含む環境配慮型のプライベートブランド「セブンプレミアム」を、セブン-イレブン店舗をはじめとするグループ約18,000店舗で販売しています。健全な森林育成と地球温暖化防止につながる取り組みとして、飲料やカップスープ以外のカテゴリーにも広げるべく、開発を進めています。



間伐材を使用した商品

●環境保全・自然共生型栽培米の販売

イトーヨーカドーでは、農薬・化学肥料を減らすだけでなく、野生生物が息できる田んぼをつくり「生物多様性農業」を実践している「環境保全・自然共生型栽培米」シリーズを販売しています。この商品の収益の一部は産地の環境整備のために寄付しており、2014年度は「コウノトリ育むお米 コシヒカリ」で約14万円をコウノトリ育成基金へ、「朱鷺と暮らす郷づくり認証米 新潟県佐渡産コシヒカリ」で約22万円を佐渡市トキ環境整備基金へ寄付しました。



環境保全、自然共生栽培米

●グリーンラッピング

そごう・西武では、ギフトをご注文の際、「地球環境を考えると」というメッセージもあわせて贈ることができる「グリーンラッピング」に取り組んでいます。お客様にリーフマスコット付きリボンを100円(税込み)でご購入いただくと、1件につき50円が植樹・育樹活動に寄付され、80件で1本の植樹につながります。また、お中元、お歳暮ギフトでは「簡易包装」へのご協力4,000件で1本の植樹を行っています。(2009年から2015年8月末までの累計で8,095本を植樹)



グリーンラッピング



社員の手でお客様の「やさしさ」が生まれた苗木を大切に植樹

●エシカルファッションイベントの開催

そごう・西武のそごう横浜店では、エシカルなファッションアイテムを集めたイベント「WHAT'S ETHICAL / エシカルファッションをはじめよう!」を2015年5月に開催しました。1つ1つの商品がエシカルである背景をわかりやすく掲示し、トークショーやワークショップも開催することで、楽しみながらエシカルへの興味を広げていただきました。



エシカルファッションアイテムを一同に集積して展開



お客様やお取引先を巻き込んだ
エシカルな社会づくりに取り組みます

「持続可能な調達基本方針」の運用

●「持続可能な調達基本方針」の運用

セブン&アイHLDGS.では、社会課題の解決と企業の競争力向上を両立させるとともに、社会と企業が持続的に発展することを目的として、2014年9月に「持続可能な調達基本方針」(以下、本方針)を策定し、グループの調達活動に関する取り組み方針を明文化しました。

生物多様性への配慮や枯渇問題への配慮、トレーサビリティの把握などにステークホルダーと連携しながら取り組むことで、持続可能な社会の実現を目指します。今後は、グループ内での本方針の浸透を図るとともに、本方針に基づく商品カテゴリーごとの基準を定め、お取引先の理解と協力を得ながら、サプライチェーン全体で取り組みを進めていきます。

お取引先行動指針の運用強化

●お取引先行動指針の徹底

セブン&アイHLDGS.は、2007年に「セブン&アイHLDGS.お取引先行動指針」(以下、本指針)を策定し、お取引先に本指針への理解と遵守をお願いしています。

本指針の趣旨は、グループで取り扱っている商品・サービスの安全性と品質の確保だけでなく、サプライチェーン全体の法令遵守、環境保全、労働条件への配慮などを推進し、お取引先の皆様とともに社会的責任を果たすことです。本指針についてはグループ各社のお取引先とのさまざまな会議を通じて周知を図っています。

●「セルフチェックシート」による指針遵守

セブン&アイHLDGS.では、お取引先に本指針を理解いただき、実効性のあるCSRの取り組みに役立てていただくことを目的に、本指針の遵守に必要な具体的事項を明記したお取引先向けのセルフチェックシートを運用しています。

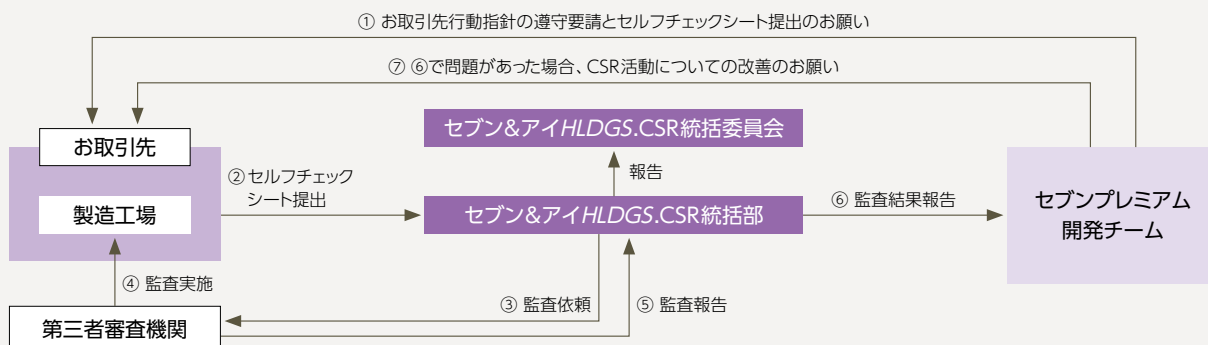
このチェックシートは、「ISO26000」「経団連企業行動憲章」「OECD多国籍企業行動指針」などを参考に作成し、グループ共通の戦略商品であるセブンプレミアムおよびセブン-イレブンのオリジナルデリーメーカーと配送センター、イトーヨーカドーの海外直輸入のお取引先に対して提出をお願いしています。チェックシートの運用を通じて、お取引先のCSRの取り組み状況を把握させていただいています。

●お取引先CSR監査の実施

セブン&アイHLDGS.では、2012年度よりセルフチェックシートの提出をお願いした一部のお取引先に対して、本指針への遵守状況を確認するCSR監査を実施しています。

CSR監査では、チェックシートに基づき、独自に作成した監査項目(16の大項目と約140のチェック項目)に沿って、外部の審査機関がお取引先の工場を監査しています。もしも、監査項目に適合しない事項(不適合事項)が発見された場合には、外部の審査機関より当該お取引先に対し不適合事項の指摘を行います。お取引先には、この指摘に基づいた「是正処置計画(CAP)」を監査終了後10営業日以内に審査機関に提出していただくとともに、直ちに指摘事項の改善に取り組んでいただいています。

「お取引先行動指針」運用の流れ(例:「セブンプレミアム」の場合)



●2014年度の監査結果

2014年度は中国、ベトナム、タイ、インドネシア、カンボジア、ミャンマーなど11カ国、256工場に対しCSR監査を実施しました。その結果、全監査実施工場における本指針の平均遵守率は88%、再監査は29工場でした。改善が必要な項目の大半は、お取引先の工場のある現地での法律／法令の要求事項に対する認識不足、誤った解釈によるものが要因で、主な項目は、「労働環境」面、「安全・衛生」面、「許認可」面でした。監査終了後各工場から提出される「是正処置計画(CAP)」、改善を示した写真・担保資料、さらに再監査などを通して、改善完了の確認を行いました。

2014年度の再監査になった違反事例

(問題があった内容は全て改善完了)

- 無届けや法基準を超えた長時間労働
- 有害化学薬品の誤った取り扱い、保管
- 無免許による機械操作、運転
- 環境アセスメントの未実施
- 未許可の廃棄物処理業者を使用

	対象工場数	監査工場数	再監査率	再監査工場数
2012年度	374	17	5.9%	1
2013年度		29	20.7%	6
2014年度		256	11.3%	29
2015年度目標	363	363	0%	0

※2012年度～2014年度の間に、対象工場の初回監査を実施しました。2015年度からはそれらの全工場を毎年1回監査します。

●さらなる対象工場の拡大

2015年度は、途上国におけるセブンプレミアムの製造工場およびイトーヨーカドーの海外直輸入工場、363工場に加え、そごう・西武(商品部・法人外商部)や赤ちゃん本舗のオリジナル商品の一部についても、CSR監査の対象範囲の拡大を計画しています。

●お取引先相談窓口の運用

取引先における疑問やご意見などをお取引先から受け付け、迅速な改善を図ることで公正な取引先の確保に努めることを目的に、「お取引先専用ヘルプライン」を設置しています。

受付窓口を委託する第三者機関と業務委託契約および機密保持契約を結び、相談・通報者の個人情報、プライバシーを厳守しています。本人の希望に応じて氏名や所属は第三者機関の窓口にとどめ、匿名でセブン&アイHLDGS.へ報告することも可能です。また、相談・通報者が相談窓口を利用したことによる不利益な取り扱いをセブン&アイHLDGS.およびグループ各社から受けないことを確認するため、通報対応終了後の1カ月をめぐりに第三者機関から相談・通報者に対し、報復行為の有無を確認しています。

相談受付件数



相談内容の内訳: ルール・法令違反の疑い
商品の安全・安心に係わる相談
従業員の不適切な行為

- 当社グループ会社 59%
- 対象外(お取引先内部に関する相談) 41%